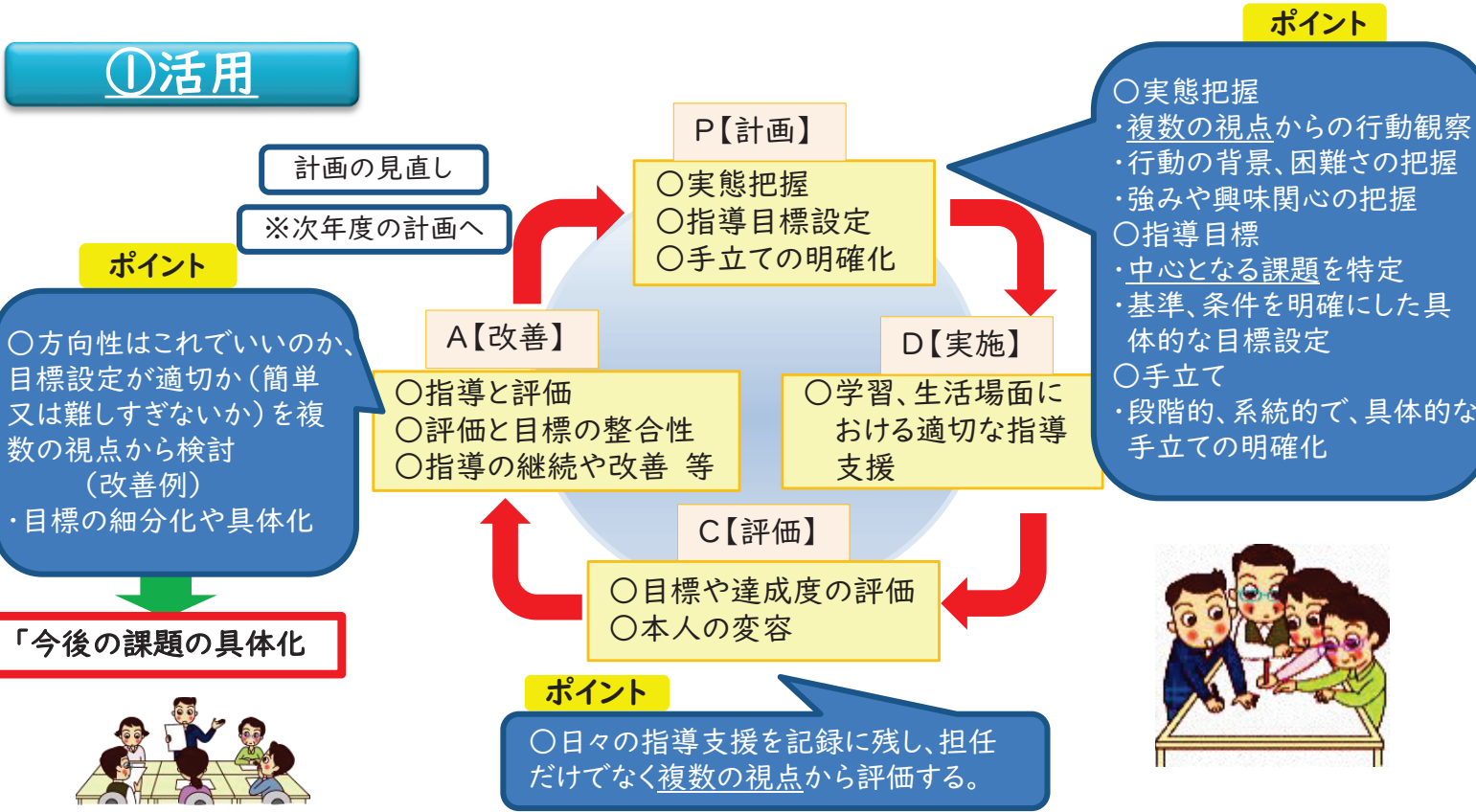


羅針盤

「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用と引継ぎ

「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」は、特別な支援を必要とする児童生徒のきめ細やかな指導や支援を組織的・継続的、かつ計画的に行うために大変重要です。特に「個別の教育支援計画」を踏まえ、1年間の指導目標や指導内容・方法を具体化するために作成する「個別の指導計画」は、作成に留まらず日々の指導支援に活かしていくことが大切です。年間を通して P【計画】D【実施】C【評価】A【改善】のサイクルを繰り返し、対象児童生徒の育ちに合わせた適切な支援と必要な指導につなげ、更には、その指導支援に関わる者で共有して、繋いでいくことができるように活用していくことが必要です。今回は、「個別の指導計画」に焦点を当て①活用②引継ぎの二つの視点からポイントを整理したいと思います。



◎年間を通して**チーム**でPDCAサイクルを回しながら行った指導支援の内容を「個別の指導計画」に位置づけていきましょう! そのためには関わる支援者同士の情報交換できる場と関係づくりが大切です。

②引継ぎ

「引継ぎ」では、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に記載されていることだけでなく、困難さの背景にある要因と目標設定や支援策とを関連づけて引き継ぎます。「なぜその目標設定をして指導したか」「効果的な指導・支援はどんなことで、なぜ効果があったのか」「どんな力が身につくと学習や生活がしやすいか」等、チームでPDCAサイクルを回して指導を進めたプロセスや振り返ったことも含めて内容を整理して引き継ぐ必要があります。そして、引き継いだ側も引き継いだ内容から、新しい環境の中における児童生徒の姿を想定し、必要な指導支援を明確にし新年度の準備をしていきましょう。